

## H28年度 尚徳福社会 海外研修報告

日時：平成28年10月11日（火）～10月15日（土）

訪問先：シンガポール共和国

訪問先施設		
日時	午前	午後
10月12日	アセンション幼稚園	
10月13日	キャタピラーコープ 幼児教育研究センター	チェリーハート・ディスカバリーランド (幼稚園)※フランチャイズ
10月14日	オデッセイ・グローバル幼稚園	EIS インターナショナル幼稚園

### <アセンション幼稚園>

キリスト教会の運営する保育園（※2部制）午前～、午後～で園児を受け入れている。

「ジュニアカレッジ」「教会」「保育園」が同じ敷地内にあり、広大な土地の中にあつた。ジュニアカレッジは大きい道路沿いに面しているため、保育園入口は（駐車スペース）は別の場所にある。（メイン道路側にある門：ST.ANDREW'S VILLAGE）

登園するゲートの内側で1名職員が園児を受け入れ。※熱を計測、手を消毒

#### ■ 3歳児・・・14名（職員配置1：7）

7名のグループの分け、それぞれ保育士1名が保育している。

《遊び》アルファベットを覚える⇒小さいノートに先生がアルファベットを書き、それをベースにした工作、色塗り、匂いや触った感じなども想像しながら、理解を広げ作品を完成させていく。家にも持ち帰り、家族にも見せるとの事。  
作品帳が毎日増えていくので楽しみになるだろうと思った。

※保育の様子が静かなので、争いは無いのかとの質問

玩具は十分に置いてある。「分かち合う」「みんなで使う」「待ちましよう」等家庭でもしつけられている。

「それぞれの遊びを30分で区切っている」ので喧嘩はないとの事であった。

30分が子どもにとって適切という事なのか・・・。楽しんでいる時に嫌がる事はないのだろうかと思った。

■4 歳児・・20 名（2 人担任）（職員配置 1：10）

4 つのグループに分かれて保育している。

英語と中国語の先生もいる。遊びの時には 1 人が加配分として加わる。

部屋はオープンコンセプトで区切りはない（棚の配置によって小さいスペースが作られている）時間を区切り違う場所で違う事をしているので先生の連携が必須となる方法であるとの事。道具は共有し、またリサイクルで作成しながら使用している。

■5-6 歳児（職員配置 1：15）

発表会の練習中であつた。ホール床にラインが引かれ何度も練習しているとの事。

まずは小さい部屋（音楽室）で練習し、少し広いホールで練習し、少しずつ空間を広げながら発表会の会場での演技に備えているそうである。

日本では保育士がカリキュラムを作成し実践するが、アセンションではプログラムは保育士以外が作成しているとの事。（プログラムはオーストラリアものを採用）

各部屋の壁、廊下に聖書からの言葉（スローガン）が貼られている。

（スローガン：学ぶことは楽しく、意味がなければならぬ⇒何のために勉強するのか）

※オスカー（漫画の少年）「オーガナイゼーション」YOU CAN DO IT

「人や物を大切にする。」「計画をたてる。」「注意深く聞く。」「時間を大切にする。」等キリスト教は「言葉には力がある」との教えがあり「口に出す」「実践する」などを大事にしているとの事であつた。

外エリアは水遊び、砂遊び・ガーデニング、外遊びが一直線上に小さく区切られていた。

砂遊びは石に色を付け「宝物」として砂の中に埋め宝探しをするとの事。

まったく散らかっていないのが印象的であつた。

廊下や階段横のスペースなど様々な個所に作品が並べられていた。商品を保護していた箱型の発泡スチロールを使って作られていた立体的な工作はその中に「別の空間」が作られていて廃品を利用した楽しめる工作となっているように思った。

作品には言葉を添える事を意識しているとの事。

2 部制なので食事提供は無いとの事だが、朝ご飯を食べていない子や空腹の子のために軽食が用意されているそうであるが、食べるかどうかは自由であるとの事。

軽食の様子を見学したところ、席は自由で決められていないのに、スムーズに椅子に座りお祈りをしていた。

シンガポールの資源は人材である。「世界に通用する人間を育てる。」を考え

5 歳からパソコンを使い（コンピューターは週 1 回程度）

6 歳ではパスワード、画面の読み方、などを覚えていくとの事。

※シンガポールでは小学校 1 年から 2 年でパワーポイントを使いプログラミングも習うのでそれまでに写真の加工、コピー等基本的な機能を教えておくとのことであつた。

小学校 6 年でロボコンに出場する事もあるそうである。

休暇に日本に行く家庭もあるし、グローバルな将来を見据えてシンガポールにはない

「四季」なども教えているそうである。

## <キャタピラーコープ幼児教育研究センター>

ビルの7階にある幼稚園。

電子錠、テンキー操作にて入室する。※熱を計測、手と足（裸足）を消毒  
政府からの援助は無く（設立は財団からの援助）保護者からの保育料と「研究、リサーチ」  
を大学や他の機関と連携しリサーチテーマによって助成金を申請し受けている。  
人件費率は60%程度。

シンガポールは国土が狭いため大人と子どもが同じ環境に暮らすことに慣れなくてはならない。建築士さんと連携して作った環境である。

（建築士さんは保育園を手掛けたことがない方であったが、常にリサーチし、新しいアイデアをもっている方であり、良い出会いであったと思っているとの事）  
想像を働かせること（「どうしてそうなのか？」）がコンセプトであり見た目の綺麗さではなく、隠れたプロセスを重要とする考えのもと作られたとの事。  
流線的なラインの三段ワァー、三角形型の筒状の登り石（？）など遊び方が固定されないようなデザインのものがあったり、木製の小屋がフロアの中に置かれ、隠れ家的な空間が作られていたり、ビルの中の幼稚園であるが端の部屋部分には天井がなく（格子状の枠線のみ）砂場が作られていて園庭のような箇所もあった。  
幼稚園を出た場所は土や植物があり、ビルの7階であることを忘れるような環境であった

カリキュラム 0-3 歳は「関係性」

※先生とのふれあい、安心、安全、信頼性をもつ⇒これからの基礎となる

■ 1 歳児の部屋のみ扉があり。見学したときは保育士さん一人を中心に幼児が円になっていた。円の外側にもう一人の保育士さんがいてフォローされていた。

カリキュラム 4-6 歳「応用する」

※調べる、聞く、文字を書く、読む、経験、人との交わり等

小学校で教わることは教えないが、入学時に必要なことは教えていく。

目的ではないが、入学時に必要な事を教える責任がある。

■ 1 歳児の部屋以外はワンフロアを低い柵で仕切ってあった。立つとすべて見渡せる。  
食堂へは順番行き、その時に空いたスペースの整理をして自由な空間を維持している。

散歩はビルの中や、ビル下の空き地、近隣の図書館、スーパーなど地域社会の中に出て見るようにしている。小学校との交流も行っている。

テクノロジー・・・常に携帯に触っている人が多いことは気になるが、避けられない時代なので、前向きに考え技術を使いこなすよう考えている。

※玩具や、鉛筆、絵本などと共に「スマホ」や、「パソコン」が置かれていた。

キャタピラーコープの保育士の60~70%は大卒者である。

キャタピラーコープは研究熱心であること、研究する思考をもつこと（スキル）を重視するので大卒者が多い。（保育士は高卒でなれる）現在のシニアティーチャー（職員を指導する）は高卒者であるが実践スキルが高いのでその職に就いている。

学歴のみを重視している訳ではない。実践スキルも評価しているそうである。

※先生の服装は様々であった。短いワンピースの先生がおられて、保育する時には不便はないのかと感じた。役割がちがうのだろうか？

シンガポールは2か国語話せる人がほとんどなので幼児期から耳に入るよう各クラスに英語、中国語の先生がいて、両方の言語を話している。

貼り紙はすべて2か国語で記載してあった。

食事についてのお話は無かったので食育等に力を入れてはいないのだろうかと感じた。

### <チェリーハート・ディスカバリーランド>

フランチャイズの私立園で3か月から6歳までが通っている。

ビルの中にある保育園で玄関は小さい。※入室時は熱を計測、手を消毒

ホールの中の装飾がかわいらしい印象。ホールの中の柱を木のように装飾し（茶色の丸い筒状）天井に枝が伸びているような装飾がされていた。

別の部屋の一面に図書館ごっこが設置され、熱を測る機械がバーコードの読み取り器に、ディスプレイが段ボールで作られ、壊れたキーボードが置かれパソコンの雰囲気が出されていた。食堂は別の部屋との間にある窓の上にチェックの庇が作られカフェの窓のようにされており、壁面には子どもの作品が小さい額に入れられてセンス良く飾られていた。楽しい雰囲気が感じられた。日本的に感じた。

子どもの作品が壁と壁に渡したロープに洗濯ばさみで吊るして飾られていた。空間を利用して飾られていたのが良いと感じた。

すべての子はユニークで潜在能力があると考えている

ビジョン：FUTURE LEADERS 未来のリーダーを育成する

「思いやり」「愛情」「地域社会に貢献する」子

父兄はパートナーと考えて、「ファミリーディ」を実施している

父兄が作る「サポートグループ」が、遠足や絵本の読み聞かせもする。

子どもも社会の一員である事を感じるよう「ゴミ拾い」などをするようにしている。

連絡ノートは簡潔である。年長児はほとんど書かない。（保育が忙しい）

質問があれば答えているとの事であった。

《保育士さんから質問》

仕事が終わらなければ残業するのか？⇒すると回答

「考えられない」といったリアクションであった。

国民性の違いなのだろうか？

### <オデッセイ・グローバルプレスクール>

ブリギ・ティマエリア（高級住宅地）にある幼稚園。

現在230人 職員は保育士以外の庭師、調理師もすべて含め55人程度

《職員配置は～18か月4:1 3歳6:1 4歳8:1 5歳10:1》

半日 (7:00-13:00=1800 s \$ (14.5万) 補助 150 s \$

1日 2,000 s \$ (16万) 補助 300 s \$

障害児も他の子どもと同じカリキュラムで行い、保育士が必要に応じ対応するが、障害の程度によっては状況に応じセラピストを保護者が雇う場合もある

入室時：熱を計測、手を消毒

保護者はiPadにて登園の状況を入力するとの事

※事務所に監視カメラ映像が流れていた。

広い敷地内には芝生が敷き詰められ、菜園があり、熱帯植物が植えられている。

庭師がいるので食べられる実が熟した時には採って食べる事もあるそうだ。

園内は各部屋の壁がガラス張りとなっており中が見える。ドアの外に電話がついていてドアを開けることなく中との会話も可能となっている。

PIAZZA と云われる自由に遊べる場所は保護者の作成した作品なども展示してあり見て楽しめる場所となっていた。(5時に迎えが来なかった子達と一緒にいる過ごすこともある)

保育室にはクッション椅子がおいてあり、絵本の読み聞かせの時でも子どもは床に座る事はないそうである。子どもと視線を合わすことが出来るからとの事。

壁には子どもの写真が貼られ、プロフィールが書かれていた。これは、自分の存在の確認クラスの員であるとの意識が芽生えるからだそうである。

ビジョンは：国際的、革新的、世界に対応する子を育成する。

北イタリアの「レッジョ・エミリアアプローチ」による「子どもの100の言語展」に感銘を受けたことから始まった園。

レッジョ・エミリアのプログラムを改良してシンガポールとマレーシアで使っている。

しかし、カリキュラムは変化していくものである。ベースは同じ(方向性)でも先生によって変わっていくと考えている。

「一つのことを深く」「自分で率先して学ぶ」環境を整えるようにしている。

※パソコンが置いてあり、子ども用グーグルで検索などが出来る。

現在『コンサート』をするためにプロジェクトを組立っている

WHAT WE KNOW⇒僕たちの知っている事

↓

興味のある事⇒プロジェクトにする⇒調べる⇒考える

↓

変化する興味⇒調べる⇒変化するプロジェクト

↓

実行に向けての必要な事⇒調べる⇒知る

↓

何を学んだか

↓

反省

調理室の中が見える子ども用キッチンがある。子どもはエプロンとシェフ帽子をかぶり調理をする。子どもは調理室の中に入り見学も可能、質問すれば調理師が答えてくれる。期ごとに行う年間プロジェクトのひとつであった 5 歳児の料理プロジェクトでは「パンケーキ」を作り、折り紙カフェ（インテリア）でサラダやプディングなども提供した。フロアサービス等も含め一連のストーリーは企業家としての要素を持ったものである。起業プラン、マーケティング、提案書、プレゼン、父兄に販売するなど小さい社会を経験した。シンガポールでは必要な事である。

屋外に遊び用の道路（横断歩道）（ミカーで走れる）がある。

芸術は学位のある人が教えることとしていて音楽室もあり、美術室もあった。

美術にもプロジェクトがあり、今期は「影」「形」「光」をテーマに作品を作っている。

博物館と連携し展示もしているとの事。

エントランスに壊れたディスクに大量のクリップを何本も連ねてシャンデリアのようにし、風の動きによってキラキラするオブジェが飾られていた。廃材を使った素晴らしい作品と思った。学位ある人に教えてもらっているおかげなのか・・・

子どもたちの作品を加工して「スケッチブック」「缶バッチ」「絵本」などにして販売し

（バザーで販売し父兄が購入）売上金をユニセフに寄付している。

子どもたちは自分の作品を売り、社会貢献を経験する事になる。

良い取組と感じたが裕福な家庭であるからできるのかもしれないと感じた。

### <EIS インターナショナル幼稚園>

日本人の為の学校である。母国語は日本語であるが 2 か国語を使っている。

保育士は英語 2 : 日本語 1 の割合で保育している。

日本の保育は平等を優先させていると思うが

ここでは今困っている人に愛情をかけるようにしている。

先取り保育はしておらず、年齢に合った事をするようにしている。

「本人のやってみたい」を大切にし

「相手を思いやる」想像力を育てるよう心掛けている。

### 英語教育

英語で話しかけられても困らないようにすること

楽しんで英語が使えるようになる事が目標であるので、子どもからの問いかけに対し（間違った英語であっても訂正せず）、保育士は「正しい英語」で答えるようにしている。

「英語で話したいと思う」が語学習得には必要な事であるし、日本に帰って英語を使わなくなっても「英語は楽しい」が残る事は良い事と思う。

日本に帰った時に困らないように

日本人としての立ち居振る舞い、日本人としてのアイデンティティも忘れないようにし

たいと考えている。

箸を使って食べる。座って食べる等・・・日本の行事についての読み聞かせもしている。

課外活動として外部からの講師も招き、サッカー・体操・ダンスなどして

現在は発表会に向けて準備をしているとの事。

現在 160 名の園児がいる。そのうち 2 クラスは異年齢クラスで保護者から希望をとり編成しているとの事。運営費は政府の補助はなく保護者負担の保育料のみであるが、会社の駐在でシンガポールに住む家庭が多いので会社から保育料が出されている事が多いとの事。

EIS は日本と同様に 4 月-3 月が区切りであるが、次に行く小学校の形態によって

(1 月～開始の学校もある) 早めに退園し準備する家庭もあるそうである。

ビルの中の保育園も多くあるシンガポールにあって広い敷地のある保育園であるが

(広く、芝生が敷かれた遊具のある庭は最近芝生が整ったところだとの事)

元は老人ホームだった建物を保育園に改装して使用されていたとの事で部屋の区切りは細かくなっていた。

10 年契約での賃借であるが、先ごろあった入札で負けてしまい、引っ越しが決まっているとの事。EIS に入園するために引っ越された家もあるので残念であるとの事

シンガポールにある「日本人保育園」として「英語と日本語」「シンガポールと日本」の両立を考えながらの保育であるが基本は「自分は大切な存在である」認識なのだ改めて感じた。

## ○シンガポールについて○

シンガポールは 51 年前に独立し、国が価値を高める努力をし美しい景観で有名です。

コンセプトも年々変化し

ガーデン in the City (庭のある町)



CITY in the ガーデン (庭の中にある町)

より美しくしていく方向性で考えられているとの事です。

高層住宅も数多くあり、古い建物はベランダが無いので洗濯物を物干しで空中に突出し干している場面も多く見受けられましたが、5 年に 1 度、壁を塗り替え、古さが見えないように景観に配慮がされているとの事でした。

シンガポールは東京 23 区程度 (719 ㎡) の狭い国土であり、天然資源がないことから

国は人材を資源と考え、人材を育てることに投資する政策が施行されています。

治安の良さに努める事で外資の誘致、観光者などを取り込める事に繋がり国に経済は発達してきたようでしたが、企業誘致が増えた事により人件費が高騰し、マレーシアなどへ拠点移った事や IT の発達による失業者に対し失業問題解決の施策も人材を育てる政策として実施されています。

資格取得のため (不足しているチャイルドケアの資格等で効果的に雇用に結び付ける)

スキルアップのための費用として 500 s \$ (4-5 万) が支給される制度。

また起業家に対し 400 万円（日本円）を補助する制度が作られているそうです。

※職業斡旋機構(E21)

シンガポール政府が子どもにかかる補助金には

■ベビーボーナスアカウント

6 歳までの子に対し、親が貯金した額と同額の入金をする。というものや

■出産一時金

70 万円（日本円）

■MOE（教育省）直轄の保育園

現在 15 か所に設置され、地域住民を優先して入園させている。

特別なカリキュラムが組まれているが通常保育料が 1000-2000 s \$ のところが

150 s \$（シンガポール人）

永住権をもつ外国人には 300s \$ と格安で入園できる。等があるとの事。

◇選りすぐりの人材を育成しようとしている。教育熱心な国

◇シンガポール大学はアジアで 1 位の学力が認められている。

◇日本は教科の理解を深め、シンガポールは社会で求められるソーシャルスキル  
問題解決能力育成を目的としている。

◇価値観を大事にしている。

◇いじめがない。

◇汚職がない。

研修中は様々なキーワードを聞きました。

本部から海外保育園研修参加は初めてであり、保育経験もない事から  
どの視点で研修していいのか迷いながらの研修でしたが

日本以外の国を見ることが出来たことは大変意義のあることでした。

ありがとうございました。